

## フィリピンでヒューマンセキュリティに関する共同教育研究を開始しました(2013/6/5-8)

場所：サン・ラザロ病院、国立感染研究所、フィリピン赤十字社（マニラ市）、アンヘレス大学（アンヘレス市）  
テーマ：「フィリピン各大学におけるヒューマンセキュリティコースの樹立と東北大学の貢献」

6月4日から8日まで災害感染症学分野の服部俊夫教授と、災害医療国際協力学の江川新一教授の二人でフィリピンを訪問し、東北大学で2005年から行われているヒューマンセキュリティコースと同様のプログラムをフィリピンにも導入することの可能性について関係各所と協議を開始しました。

フィリピンでは、頻繁に台風や洪水災害に見舞われていることや、火山地帯で巨大地震の発生も予測されていることから災害対応に関する関心は高く、ヒューマンセキュリティをいかに教育し、社会体制として整えていくかがタイムリーな課題としてとらえられています。また、経済成長期にありますが、社会的インフラの整備は必ずしも進んでおらず、マニラなどの大都市圏の混雑、周辺の貧困層、離島などの問題を抱えています。疾患の多くが AIDS、結核、デングなどの感染症で、洪水時にはレプトスピラ感染症が増加します。災害時緊急対応に対する全国的な教育はされていますが、行政とさまざまな医療・保健・福祉団体間の調整が課題です。

フィリピン大学では既に3月に訪問した際に Human Security の概念と IRIDeS については紹介済みであったので、Human Security Course の具体的内容に関する説明と提案を行いました。Groliani 学長は academia が disaster に対して、active に対応することは今までなかったことなので、これを積極的に提言することの意義付けが必要であろうとされました。Active academia in disaster は大事な概念ですが、これはフィリピン大学が同国の学問のトップクラスであることから来る物でしょうし、いわゆる象牙の塔である大学の体質がフィリピンでも問題になっている可能性があります。

サン・ラザロ病院救急部でフィリピン健康局の危機対応担当グループに東日本大震災の医療観点からみた課題と教訓、わが国のハザードマップ、つぎの災害への備えについて講演を行い、ヒューマンセキュリティにおける災害に強い社会をつくる考え方が高く評価されました。フィリピン赤十字でも講演を行い、災害対応に特化した指令室、危機対応チーム、緊急出動車両システムを見学しました。フィリピン赤十字社は病院を持っておらず、わが国の状況とは大きく異なりますが、災害対応における保健・医療・福祉の在り方に高い関心が寄せられました。

アンヘラス大学パブリックヘルス学部において授業を行ない、過去の震災から樹立された災害医療対応システム、東日本大震災でうかびあがった課題、予測されているハザード、2015年の世界防災会議で見直される行動枠組み、服部教授が東北大学ヒューマンセキュリティコースの紹介、感染症の現況と課題、災害対応時における感染症の変化と対応の重要性について講義を行いました。聴衆はパブリックヘルス学部の指導的立場にある看護師・医師で、活発な質疑応答がありました。フィリピン WHO、臨床検査学会、フィリピン健康局の方々とも面談し、今後災害対応に関する大学院カリキュラムを共同で樹立運営していく方向で関心を示していただきました。9月にフィリピンにおいてシンポジウム・セミナーを開催し、さらに進めていく予定です。



フィリピン赤十字で



アンハラス大学での講義

文責：江川新一、服部俊夫（災害医学研究部門）